

一人ひとりにあった充実したケアを



耳原総合病院産婦人科

「耳原総合病院産婦人科」では、年間700件を超える分娩を取り扱っています。対応数に制限はありませんが、無痛分娩への対応も行ってあります。総合病院の特性を生かし、出産時の緊急対応もしています。これまで、超緊急帝王切開（日勤帯では10分以内、夜間では30分以内）の分娩、産科危機的出血（院内救急体制、24時間手術対応）などにスムーズに対応するため、定期的に院内シミュレーションに取り組み、成果を上げてきました。2020年度には、施設基準が整ったことからNICU（新生児特定集中治療室）を開設しました。NICUの開設により、これまで当院で対応困難な新生児に対しての治療、管理も行うようになり、小児科との連携も充実しています。

当院の分娩費用は、約45万円です。これは支給される出産手当一時金とほぼ同額で、追加費用の負担が少なく出産に臨んでいただけます。産後は、個室での母児同室となります。個室料は不要です。

2020年実績

分娩件数	756件
無痛分娩	50件
婦人科手術総数	185件
腹腔鏡手術	129件
開腹手術	56件

2020年4月からは、鳳クリニックでの産婦人科外来を開設しました。鳳クリニックで妊婦健診を受けることができます。

当院でお産を希望されている妊婦さんの安心に繋がることを期待し、医師、外来、病棟、と連携し、妊娠、出産、産後を通して、一人ひとりにあった充実したケアを心がけています。

ご家族、ご友人など、周囲の方で出産予定の方がおられましたら、ぜひご紹介ください。

表面から見えにくい 日本社会の貧困

以前から、7人に1人が相対的貧困に陥っていた日本社会が、コロナ禍でさらに格差と貧困が拡大しています。貧困と言えは、発展途上国などで飢餓に瀕している人たちのような絶対的貧困をイメージする方もおられますが、日本の貧困は社会の表面からは見えにくく、深く可憐に広がっています。

3月24日、25日と中之島の大阪市庁舎前で開催された「フードバンク・大相談会」に参加した柴田専務補佐は、次のように語ります。「多くの食料、米、野菜、乳製品、水、ラーメン、スナック、粉ミルク、マスク、紙おむつなどが用意されたほか、コロナ禍での生活相談がテントブースで行われました。雨模様の肌寒い中、訪れた方は圧倒的に女性が多く、それも一見OJや女子大生とイメージが違っていました。コロナ禍による解雇や貧困にあえぐ方々が、女性や社会的弱者であることを深く考えさせられました。」

もともと、女性は非正規雇用や低賃金が多く、男性に比べ、貧困率が高くなっています。飲食など、サービス業に従事する人も多く、コロナ禍でシフトが削られたり、失業する人が急増しています。2020年における総自殺者数は2万人あまりで、男性は2019年よりも若干減少しましたが、女性は20

19年から900人以上増加しました。経済問題だけが理由ではありませんが、DVや健康問題の根底にも女性の自立を阻害している経済問題が、コロナ禍の直撃でさらに悪化したことは疑いありません。

学生の貧困も、コロナ禍前から社会問題になっていました。約半数の学生が奨学金を受けているとはいえ、実質は利息の付く借金で学費をまかっています。アルバイトで生活費を稼いでいた学生は、コロナ禍で収入が激減し、食べ物にも困っています。学生対象のフードバンクも、全国の大学などで実施されています。朝食を無料や安価で提供する取り組みも、全国で広がっています。

（編集委員会事務局）



地域の団体・個人と力を合わせて 大きな安心のネットワークを

助け合い、支え合いでのちとくらしを守る

新型コロナウイルスは、人は誰もが生きていく上で他者のケアを必要とする存在であり、ケアが社会を維持するために不可欠なものであることを示しました。同時に、エッセンシャルワーカー（人々が日常生活を送るために欠かせない仕事を担っている人）とも称される医療、介護、福祉などの社会保障の担い手の重要性と、その処遇が低く留め置かれている現実を明らかにしました。

こうした状況のもと、同仁会と友の会をはじめとしたみみはらグループでは、無料低額診療事業の紹介、のべ2万件近い「お元気ですか対話・訪問」、法律相談をはじめとした各種相談活動を実施しています。

助け合いの活動では、NPO法人ともつずの「ワンコイン助け隊」【おでかけ助け隊】（郵送福祉送達事業）を中心に、「介護難民」や「交通弱者」「買い物難民」をつくらない取り組みをすすめています。

地域との協同の取り組みでは、大阪健康福祉短期大学の学生さんへの物資支援、大阪みなみ医療福祉生協の「フードバンク」、大阪社協の「フードバンク」への協力などを行ない、自治会との共同で無料低額診療事業の学習会や健康チェックも行って、地域に安心のネットワークをひろげる取り組みをすすめています。この



1年間で地域から寄せられた「いのちの募金」は、16万33994円になっています。

引き続き、新型コロナウイルス感染症の広がりは、地域の命（いのち）を脅かしています。私たちは、全力をあげて感染症の広がりを抑え、命（いのち）を守るとともに、地域の団体・個人と力を合わせて、さらに大きな安心のネットワークづくりをすすめています。

6月13日には、民医連大阪南ブロックの取り組みとして、「フードバンク」を予定しています。みなさんの協力とご参加をお願いします。

（組織部部长 篠原昇一）

大阪南部支えあいプロジェクト
フードバンクみみはら
2021年6月13日(日)10時~12時
耳原旭ヶ丘会館にて
食材無料配布します

コロナの影響で生活に直撃している方に対し地域のみならずから提供された食料や日用品を無料でお配りする支え合い支援活動に取り組みます。困った時はおっしゃってください。ひとりでも安心して暮らすための危機を乗り越えましょう！裏面の地図をご参照の上、マイバック持参をお願いします

食材の寄付とボランティアさん大募集です

募集食材 *腐りにくい食材 大募集から歓迎です
例：お米、缶詰、飲み物、腐りにくい野菜、インスタント麺類、パップご飯、レトルト食品、お菓子、調味料、トイレットペーパー、洗剤、などの生活必需品、募金も大歓迎 ※すべて未開封の物に限ります

食材届け先 同仁会、大阪みなみ医療福祉協会の各事業所 ※裏面に記載あり
5/15までの月曜日から金曜日の朝9時~夕方5時の間をお願いします

当日ボランティア
前日準備または当日配布のボランティアさんを募集しています下記まで
健康友の会みみはら事務局
072-244-8061 担当：福岡
PCメールアドレス
tomo-kenkou@mimihara.or.jp

主催：社会医療法人同仁会 大阪みなみ医療福祉生協同組合
連絡先：健康友の会みみはら 072-244-8061

事業所名	住所	電話番号
社会医療法人同仁会総務部	堺市東区大仙町 6-184-2	みみはらグループでのフードバンクに関するお問い合わせは
みみはら高砂クリニック	堺市東区高砂町 4-109-2	072-244-8061
耳原風クリニック	堺市東区高砂町 3-5-47	
みみはらファミリークリニック	堺市東区高砂町 1-1-5	
耳原高砂診療所	堺市東区高砂町 2-1-5	072-233-6569
城北診療所	堺市東区南野田 127	072-236-3211
北野野診療所	堺市東区南野田 3-4-2	072-367-3339
狭山みんなの診療所	大阪狭山市山台 3-4-2	072-938-6226
コープ診療所	羽曳野市南島根之丘 4-5-1	072-441-8881
阪南医療生協診療所	岸和田市東町 2-2-18	072-236-3217
阪南医療生協本社	堺市東区南野田 127	

会場案内図（旭ヶ丘会館：堺市東区旭ヶ丘中町 2-1-7）

当日の連絡先は 080-7178-7496 福岡まで

利用者様の体調面や気持ちに寄り添い



みみはら高砂クリニック 通所リハビリテーション

「みみはら高砂クリニック通所リハビリテーション」は、本年5月1日より、半日型（リハビリ・入浴サービス付き）のデイケアとして、新たにスタートしました。

理学療法士によるリハビリ指導を中心に、ステップマシン、ウォーキングマシンなど、各種のマシントレーニングを取り揃え、利用者様の状態に合わせたプログラムでのびのびとトレーニングしていただけます。また、運動トレーナーによる集団体操も行います。もちろん徹底した衛生管理、環境整備を行っておりますので、安心してご利用いただくことができます。

利用者様のコミュニケーションを大事にし、利用者様の体調面や気持ちに寄り添い、「このデイケアに来てよかった」と言っていたら幸いです。職員一丸となって取り組んでいきますので、今後ともよろしくお願いたします。

（岡洋一）